

継続可能な
インパクトを
生み出そう

ロータリーを語ろう
2.0+

2026-2027

No.1844

2026.9.24

会長：石坂一男 幹事：小林信広
会員数：51(内4名特別会員) 会場出席：26 欠席：25
出席率：54.17% 前回出席率：100%
点鐘：石坂一男 会長 司会：宮田美行 副S A A
ロータリーソング：四つのテスト・沼田中央ロータリーの歌(ソングリーダー：小曾根一雄)
例会場：沼田健康ランド 12:30～

来訪ロータリアン

国際ロータリー第2840地区第5分區
齋藤清海 ガバナー補佐(渋川RC)

会長の時間

石坂一男 会長



皆さん、こんにちは。連休はどのように過ごしましたか。

今日はお彼岸についてお話致します。意外に思われるかもしれませんが「お彼岸」という行事は、仏教発祥の地インドにも、伝来経路である中国にも存在しません。仏教の概念である「波羅蜜多(彼岸)」自体は世界中の仏教国に共有されていますが、「春分・秋分の前後7日間に祖先を供養しつつ六波羅蜜多を实践する」という形式の年中行事は、日本だけで発達したものです。これはインド由来の仏教思想と、日本古来の太陽信仰・祖霊信仰が融合した結果と考えられています。

日本における彼岸会の歴史は、確実な資料として『日本後紀』に記録が残ります。

「彼岸」という言葉は、古代インドのサンスクリット語「パーラミター」に由来します。これを漢字で表したのが「波羅蜜多」であり、その意味が「到彼岸」または「至彼岸」です。すなわち「お彼岸」は、「彼方の岸へ到達すること」そのものを意味します。「お彼岸」という言葉の背後には、2500年前のインド仏教の言語が生きています。

日本最大の仏教宗派である浄土真宗本願寺派の公式サイトでは、彼岸について次のように説明しています。

「迷える苦悩の世界を『此岸』、さとの境界を『彼岸』
「人生の目的は迷いを超えて生死の河を渡り、さとの境界に到達すること」

つまりお彼岸は、亡き人を偲びつつ、同時に「自分自身の生き方を此岸から彼岸へ向かう方向に整える」期間として伝承されてきた行事だと言えます。

またお彼岸が春分と秋分に行われる理由は、仏教の浄土

思想と天文現象が重なる日だからです。浄土思想において、阿彌陀如来の極楽浄土は西方にあるとされ、春分・秋分の日には太陽が真東から昇り真西へ沈みます。沈みゆく太陽を礼拝することで、その先にある西方極楽浄土に思いを馳せる「西方礼拝」の習慣が、お彼岸の中核を形づくりしました。「此岸と彼岸が最も近づく時期」とも考えられ、祖先と心を通わせやすい特別な日として位置付けられたのです。

春分・秋分は、天文学的に「昼と夜の長さがほぼ等しい日」とされます。この均衡の日に、生きている此岸と亡き人の彼岸の世界が「等しく重なる」と考えられてきました。仏教の哲学と日本人の自然観が結びついた結果、春分・秋分はお彼岸として広まったのです。

幹事報告

小林信広 幹事



- ①2027-2028年度の2840地区委員長及び委員の候補者推薦の案内がきています。
- ②米山記念奨学会より今月の『ハイライト米山』の案内がきています。マイロータリーから入って、ご覧下さい。
- ③新潟万代RCから、10月26日(月)の合同例会・親睦ゴルフコンペの案内が届きました。詳細は後日お知らせします。



ソングリーダー 小曾根一雄 会員



齋藤 清海 ガバナー補佐 (渋川RC)

10月8日(木) 竹中ガバナー公式訪問、どうぞ宜しくお願いします。

石坂 一男・小林 信広

- ①齋藤清海ガバナー補佐、ようこそお出で下さいました。宜しくお願いします。
- ②ガバナー補佐には、先日の第5分区会長・幹事会ではガバナーを囲んで有意義な親睦ができ有難うございました。

生方 彰

本日は、齋藤清海ガバナー補佐の公式訪問を記念し、ご訪問を心から感謝申し上げます。

本山 佳宏

妻の誕生日に素敵なお花のプレゼントをありがとうございました。とても喜んでました！！

赤井 幸夫

齋藤清海ガバナー補佐の来訪に感謝してます。

連名(本山佳宏・高橋和朗・柏井千恵子・中西徳弥・小林信広・植村仁・金井利夫・宮田美行・武井正男・高橋昭紀・北野浩司郎・小澤博之・原澤ふじ子・木村修洋・坂井隆・永井郁・吉住正史・茂木清七・武井順一・富井潤・小曾根一雄・堤浩恵・古池好幸)

齋藤清海ガバナー補佐、沼田中央RCへようこそいらっしゃいました！ 新しい会場をお楽しみ下さい。



第5分区 齋藤清海ガバナー補佐

- ・10月8日 竹中隆ガバナー公式訪問について
- ・11月20日 インターシティミーティング(IM)について



生方彰バストガバナー

- ・ロータリーの5大奉仕とは
〈クラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕・新世代(青少年)奉仕について〉

